

グラフ うつくしま

第13号

隔月刊 奇数月1日発行

【特集】子どもたちの
「生きる力」を育む





①四季の里のラベンダー畑 (福島市)
吾妻小富士を仰ぐ、自然豊かな空間に咲くラベンダーの花々。その豊かな彩りと心休まる香りを楽しむ人々が訪れます
福島観光協会 ☎024-525-3722



③葉たばこの消毒作業 (常葉町)
農家の人々が丹誠を込めて育てた葉たばこは夏に青々と茂り、初夏の風物を彩ります
常葉町農林商工課 ☎0247-77-2111



②Jヴィレッジ (檜葉町・広野町)
いよいよ迫ったサッカー・ワールドカップ開催。アルゼンチンのキャンプ地となるJヴィレッジでは、未来の活躍を夢見る子どもたちがフィールドを駆け抜けています
Jヴィレッジ ☎0240-26-0111

グラフ うつくしま 第13号

表紙の写真／田んぼの中のお地藏様 (郡山市)
青い苗がそよぐ田んぼの水面を、まるで悠々と眺めているかのようなお地藏様。このお地藏様を大切にしながら稲を育て続けてきた人々の営みに、素朴な優しい心を感じる風景です
(撮影地：熱海町長橋地区)

C O N T E N T S

ふくしま四季彩物語 2～3

[ひと・人・ひと]
子どもに贈る創作民話を出版
村野井 幸雄さん 4～5

[特集]
子どもたちの
「生きる力」を育む 6～9

[歴史探訪]
隠されたオランダ人
ファン・ドールンと
安積疏水が築いた絆 10～11

県政トピックス・県人会だより 12～13

話題のひろば 13

情報ぶらざ～県からのお知らせ～ 14～15

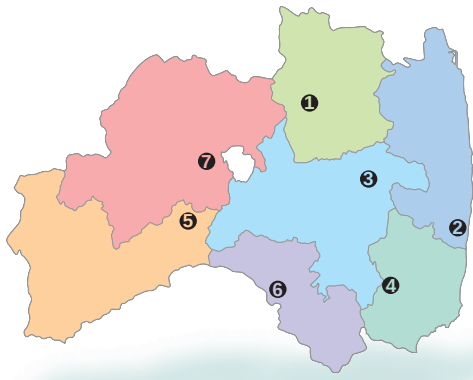
[うつくしまギャラリー]
かわまたおりもの展示館 16



④入川溪谷 (いわき市)
入道野川の上流は、俗化しない自然林に囲まれています。新緑の中、足を踏み入れると、自然石とコケの美しさ、清らかな水が人々の心をこらえます
いわき市観光協会 ☎0246(27)2871

四季彩 物語

さわやかな緑の風の中、
季節は色めき、大地は生命を宿す。
自然を感じ、自然を生かし、
その大いなる恵みを
夢見る人々の営みが始まる――。



⑤新緑の会津鉄道と若郷湖（下郷町）
渓谷の若い緑の中を走り抜ける会津鉄道。自然の息吹をダイナミックに味わえる風景が眼下に広がります

下郷町企画観光課 ☎ 0241-69-1144



⑦鶴ヶ城内を走る人力車（会津若松市）
うらかな日射しの中を走る人力車。春と秋に城内で開かれるイベントでは、商店街からの出店などがあり、まちおこしの新しい力となっています

会津若松市観光課 ☎ 0242-39-1251

⑥南湖のジュンサイ採り（白河市）
古くからジュンサイの産地として知られる南湖。小舟で丹念に採取した若芽や若葉は、食用として人気があります
白河市商工観光課 ☎ 0248（22）1111



心の中の細かいニュアンスは
方言が表現してくれる――

「方言は心の中の本当の気持ちに一番近い」と、
方言で書いた現代詩を朗読してくれました。
昭和27年から主宰する『詩脈』は教え子たち
と一緒に作り始め、今も続いています

子どもに贈る 創作民話を出版

福島県現代詩人会会長
福島県方言を語る会会長

村野井 幸雄さん

(会津高田町在住)

方言の豊かな表現力を見直す

「口伝えに伝承されてきたものは、祖先が残した伝統文化。子どもの本離れが叫ばれている現代、昔話や伝説を児童文学にしてみました」

会津高田町にお住まいで元中学校長の村野井幸雄さんが、昨春秋に出版した『子どもに贈る——会津の創作民話』を執筆したきっかけをこう話してくれました。

昭和30年代、中学校教諭をしていたころ、子どもたちはおじいさんやおばあさんから昔話を聞くことが意外と少なく、民話などの出版物も少ない時代だったそうです。そんなとき村野井さんは、会津一円の民話や伝説を発掘して歩いたのだとか。昭和54年にそれらを『やさしく書いた会津の伝説』にまとめました。

今回の作品はそこから13編を選んで書き下



これまでに出版した本の数々。地元根に根ざした題材を元にした創作民話をはじめ、地域の行事にまつわるものなど多彩な分野に渡っています

ろしたもの。文字を大きくし、漢字にはふりがなを振り、元小学校教諭で版画家の玉川岩雄さんの挿し絵も入り「小学校低学年から読むことができます」と村野井さんは話します。

また、昨年開かれたうつくしま未来博では、からくり民話茶屋「語り部スクール」の講師としても活動。「方言のもつ快い響きで民話を話してください」と講義されました。期間中は161人のスクール参加者が上演。「うつくしま未来博が終わっても各地でのイベントなどで活躍していてうれしい。特にこれまで少なかったいわき方面の語り部が増えたのは心強いこと」と、後に残った財産ともいえるべき成果を評価します。

村野井さんは現在、福島県現代詩人会会長や福島県方言を語る会会長などを務め、蛸原由起夫というペンネームで現代詩人としても活躍しています。最近では、方言を使った現代詩と音楽とが一体になったステージにも出演して、新しい表現の可能性を探っています。

「現代詩は自由詩。何も決めことはない。素直な感情をぶつけること」という村野井さん。感情を素直に表せる手段の一つが方言だったのではないだろうか。これからもふるさとをテーマにした村野井さんのさまざまな試みは続きます。

現代詩を朗読する村野井さんと小林さとのさんのギターの弾き語りで公演した「物語紀行」(福島市荒井・西田記念館、平成10年11月8日)



昭和30年代、教え子を集団就職で東京に送り出した時には「都会で笑われないように」共通語を一生懸命教えました。しかし「方言は祖先が生きてきたあかしと、胸を張って言える言葉の温もりがある」と村野井さんは話します



うつくしま未来博のからくり民話茶屋では、村野井さんたちが指導した語り部たちも大活躍



特集

子どもたちの 「生きる力」を育む

いよいよ4月から、毎週土曜日を休みとする「完全学校週5日制」が全国すべての公立学校で始まりました。休みの日は、学校の授業とは全然違うことを体験する絶好のチャンスです。それだけに、家庭や地域での教育の機会が、これまで以上に大切になります。

一人ひとりの子どもたちに「生きる力」^{はぐく}を育むために、学校と家庭と地域社会が互いに手を携えながら、いま、新たな試みが行われ始めています。

完全週5日制の実施で 心豊かな「生きる力」を育成

完全学校週5日制は、子どもたちが豊かな体験によって豊かな心を育めるよう、家庭や地域でのさまざまな体験活動などの機会をもっと増やしていくというものです。休みの日は、子どもたちが生活の中で必要なルールと思いやり、やさしさといった内面的なことを学ぶ絶好のチャンス。それらは、学校だけでなく、家庭や地域社会など生活全体で学ぶものです。

今日、子どもたちの教育環境や社会意識は大きな過渡期にあり、青少年非行の低年齢化や凶悪化が年々顕著となり、大きな社会問題となつていま

すが、道徳観や正義感などは家庭や地域社会での活動や体験が豊かであるほどしっかりと身につけていることがアンケート調査結果（左のグラフ参照）からうかがえます。完全学校週5日制は、一人ひとりの子どもたちに、そのような体験活動を通して「生きる力」を育むことをねらいとしています。

既に学校や地域では、子どもたちの「生きる力」の育成に向け、さまざまな取り組みが始まっています。

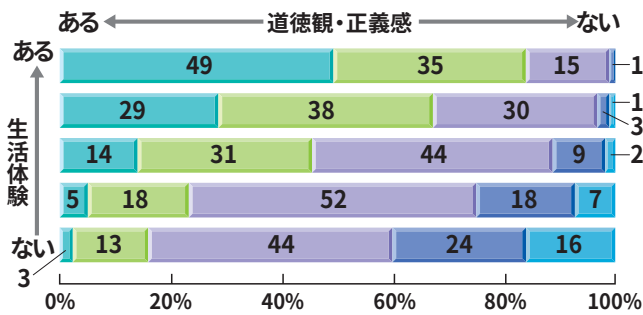
学校では、子どもたちが自ら課題を発見し問題を解決する力をつけることを目的に始まった「総合的な学習の時間」を今年度から本格的に実施し、創意工夫を生かした特色あるさまざまな取り組みが行われています。地域でも、公民館などで自然

体験活動や文化・スポーツ活動、ボランティア活動などが、完全学校週5日制の実施を契機に活発化しています。

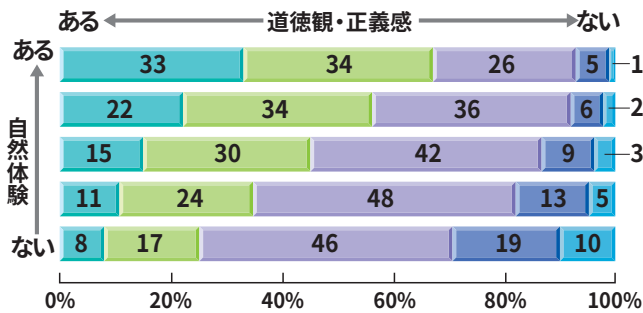
これらの活動では、地域のお年寄りを学校の体験学習の講師に招いたり、地域でのスポーツ活動に学校の体育館や校庭を開放するなど、学校と地域社会が連携した取り組みも多く行われています。

子どもたちの「生きる力」を地域全体で育んでいくためには、学校・家庭・地域社会が互いに協力しながら取り組んでいくことが大切です。学校も家庭も地域社会も主体性を持って、より積極的に連携をとりながら、お互いの活動に関わっていくことが、今後ますます望まれます。

生活体験と道徳観・正義感



自然体験と道徳観・正義感



文部省「子どもの体験活動等に関するアンケート調査」（平成10年12月）より

※さまざまな設問に対する回答を得点化し5段階で評価

設問例
（道徳観・正義感：家族や知人へのあいさつ、電車で席を譲ったこと
生活体験：果物の皮むき、赤ちゃんのおむつ替え、公園のごみ拾い
自然体験：木登り、海や川で泳いだこと、キャンプ、魚釣り）



お年寄りに昔の学校の様子についてインタビューする会津若松市立鶴城小の児童



お年寄りからあや取りの指導を受ける浪江町立浪江小の児童

生きる力とは

- 自分で課題を見つけ、自ら学び、考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決することのできる資質・能力
- 自らを律しつつ、他人と協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性とたくましく生きるための健康と体力

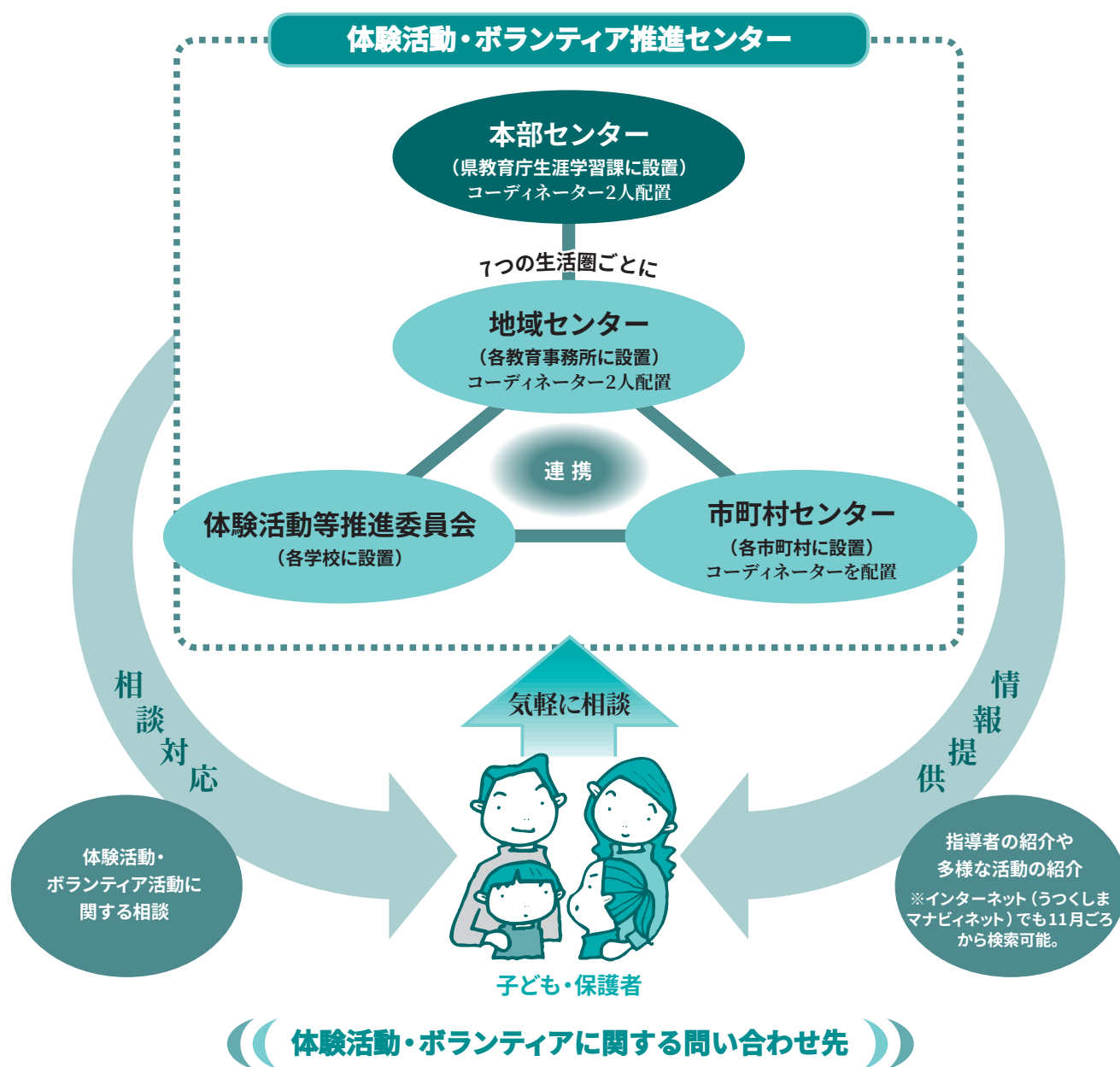


学校や地域の活動を支援する 体験活動・ボランティア推進センター

県教育委員会では、青少年の社会性や思いやりの心など、豊かな心を育むため、学校内外を通じた体験活動の充実を図ることを目的とした体験活動・ボランティア推進センター事業に今年度から取り組んでいます。これは、子どもたちがそれぞれの発達段階に応じてさまざまな体験活動ができるように、県および市町村などに推進センターを設置し、コーディネーターを配置してさまざまな支援を行うものです。

各センターのコーディネーターは、青少年の体験活動やボランティア活動に関して相談に応じ、情報提供を行います。例えば、学校が総合的な学習の時間に向けて講師派遣や各種情報が必要な場合、学校や地域団体と連携を取りながら、最適な講師を探したり、テーマに合った活動の情報を提供したりします。また、保護者が公民館を借りて子どもたちの体験講座を開く場合、学校の教師などに講師として参加してもらったり、学校、公民館、地域団体が持つ体験学習のノウハウを提供します。このように学校も地域社会も手を携える「学社連携」のシステムが、皆さんのさまざまな活動を応援します。

また、放課後や週末に学校の余剰教室や公民館を開放し、子どもたちに地域の大人との交流活動や自然体験に取り組んでもらう事業や、県内3市町村をモデル地域に指定して小・中・高校生のボランティア団体の活動を支援する事業なども今年度から実施しています。



県教育庁生涯学習課	☎024-521-7794	会津教育事務所	☎0242-29-5489
県北教育事務所	☎024-521-7715	南会津教育事務所	☎0241-62-5367
県中教育事務所	☎024-935-1488	相双教育事務所	☎0244-26-1315
県南教育事務所	☎0248-23-1666	いわき教育事務所	☎0246-24-6144

魅力いっぱい！ 県の体験交流施設



アクアマリンふくしま

☎ 0246-73-2525

ここでは、毎日いろいろな参加体験型のワークショップが開催されています。世界最大のほ乳類であるクジラについて、クイズを交えて解説するワークショップや、磯の生き物に直接触れて学ぶタッチングスクール、本物の化石から型をとりキーホルダーなどを作る工作教室など、海に身近に触れ、海の不思議をいきいきと体験できます。



ボランティアで館内を案内している

後藤 美穂さん
(福島工業高等専門学校2年)

水族館が大好きなので、全国各地からいらっしゃる人々と知り合いになったり、来館者からいろんなことを吸収できたりするのは楽しいし、勉強になりますね。たくさんのお見所や体験コーナーがありますので、館内を案内するわたしたちボランティアに、ぜひ声をかけてください。

フォレストパークあだたら

☎ 0243-48-2040

緑豊かな自然に囲まれ、自然観察会や炭焼き体験、森林の手入れなど、さまざまな野外活動が体験できます。また、国内でも有数の規模と質を誇るオートキャンプ場で、快適なアウトドアライフを過ごすこともできます。



もりの案内人を務める

鈴木 喜男さん
(ふくしま・もりの案内人の会)

ここは雑木林などの自然林が多いので、さまざまな自然の豊かさに出会うチャンスが多いですね。子どもたちに伝えたいのは森林を中心とした「命のつながり」。炭焼き体験・森林保育体験などを通して、暮らしの中に森林を近づけ、地球環境に対して何をしなければならぬかを、自分自身で考えるお手伝いをしたいですね。

福島県文化財センター白河館 「まほろん」

☎ 0248-21-0700

館内の体験活動室では、「^{まがたま}勾玉づくり」「火おこし」「アンギン編み（縄文時代の編み物づくり）」など、古代の技術を体験できます。野外の体験広場でも、古代の生活を体験するイベントを開催し、古代に肌で触れ、創意工夫の力も伸ばす試みが行われています。

家族で勾玉づくりを体験した

紺野 陽香さん
(福島市立清水中2年)



文化財の映像を見たり、展示物をじかに見たり触ったり…教科書だけで勉強するよりも、ずっと分かりやすく面白かったです。勾玉作りは、形を自由に考えて、自分だけのオリジナルが出来るのが魅力。おみやげに作成キットも買ってきたので、近所の子に作り方を教えるのが楽しみです。

福島県自然の家

相馬 ☎ 0244-33-5224

郡山 ☎ 024-957-2111

いわき ☎ 0246-32-7700

会津 ☎ 0242-83-2480

県内4カ所の自然の家では、各地域の特色に応じ、多様な自然体験やものづくりなどの機会を設けて、創造性や可能性を伸ばし、「生きる力」の育成を目指しています。また、高校生は、ボランティアとして活動に参加することもできます。

竹とんぼづくりとベーゴマ遊びを体験した

佐藤 由弘さん
(相馬市立養護学校)



すでに出来ているおもちゃで遊ぶのではなくて、自分の手で工夫したり加工したりすることで、遊びの幅が広がります。友達と技を競い合うと、子どものかわり合いも自然に生まれてくるようですね。自然の中で、子どもも大人も、年齢や地域の違いを超えて体験活動ができるのは有意義だと思います。

「17字のふれあい」作品募集

日常生活や地域での体験活動などで、大人と子どもが共感したことを俳句や川柳で表現した「17字のふれあい」作品を募集します。

世代を超えたふれあいの中で生まれた喜びや感動を表現した作品をお待ちしています。

◆募集期間 7月1日(月)～9月30日(月)

◆応募方法 最寄りの市町村教育委員会または県教育庁生涯学習課に備えてある募集要項(6月中旬から配布予定)をご覧になり、指定の応募用紙に記入の上、ご応募ください。

※大人の作品と子どもの作品のペアでの応募となります。

◆応募・問い合わせ先

最寄りの市町村教育委員会または県教育庁生涯学習課 ☎ 024(521)7794

歴史

探訪

「うつくしま」への系譜



隠されたオランダ人

ファン・ドールンと

安積疏水が築いた絆



ファン・ドールン像



安積疏水開削の際に使われたトランシット（測量器械）

猪苗代湖の豊かな水を安積原野（郡山市）に導き、荒野を美田に変えた「安積疏水開削」に力を尽くしたオランダ人技師ファン・ドールンの像が、湖畔の十六橋水門そばに建っています。戦時中、金属類の強制供出の運命が待っていた像を守ろうと、決死の思いで隠し、守り通した人々がいました。ここでは、当時その決断を下した渡辺信任の甥で、実行部隊の一人の息子でもある、安積疏水土地改良区副理事長の遠藤直人さんにお話を伺いながら、時を超えて守り通した大切な心に想いをはせてみました。

■開拓に不可欠な水を導く

現在、中核市として大きな飛躍を続け、全国第2位の米生産高を誇る郡山市。その発展はすべて「水」から始まりました。明治維新のころ「安積開拓」において、安積疏水の開削は不可欠のものでした。当時の安積原野は不毛の地。猪苗代湖の水は西の会津盆地を潤しましたが、東の安積原野には一滴も流されることはなかったのです。

明治維新後、新政府は、失業した士族の救済のため、開墾地を検討していました。そんな状



会津の日橋川入り口にある十六橋水門は、安積疏水の開削に伴い、会津側に流れる猪苗代湖の水量を調節するためにつくられました



明治15年（1882）、沼上隧道が通水。それは、奥羽山脈をトンネルで貫き、猪苗代湖の水が初めて安積原野に導かれた瞬間でした



猪苗代湖畔に建つファン・ドールン像。足元をセメントで固めた「傷跡」は、戦時中の金属類の強制供出から守ろうと、農民たちの手によって運び出された際に出来たものです

明治15年（1882）、沼上隧道が通水。それは、奥羽山脈をトンネルで貫き、猪苗代湖の水が初めて安積原野に導かれた瞬間でした。この時、ドールンがまず考えたのは、会津の日橋川の入り口に「十六橋水門」を整備することでした。湖の反対側である安積疏水の開削のために、なぜこの整備が第一に必要と考えたのか。このことについて遠藤さんは、「今まで湖の水を利用してきた会津盆地の農民を決して困らせてはいけません。そう考えたのです」と話します。湖の水位が変わっても会津側へ流れる水に影響を与えずに、安積原野に必要な水を引き入れる。その水位の調節のために作られた十六橋水門の役割は「湖のダム化」でした。アムステルダムという都市名が示す通り、低地にある彼の母国オランダは河川や水利に関する土木技術は世界一。ドールンの設計に基づく安積疏水工事は、明治12年（1879）に開始され、高度な指導のもと、政府派遣の技術者や福島県内の技術者が活躍。3カ年の月日を要し、明治15年（1882）に完成しました。そして、年月がたってもこの恩人のことを忘れなかったのは、農民たちでした。

況の中、政府は猪苗代湖の水をかんがい利用することを考え、明治初年から調査を開始。明治11年（1878）には、オランダから招いた土木設計技師ファン・ドールンを郡山地方に派遣し、本格的に開削事業の可能性を検討、実地測量を行ったのです。

■恩義を胸に、隠された銅像

永年の夢だった猪苗代湖からの引水を目にした農民たちは、手を握り合い、皆が涙を流したと言われます。そして、全国から入植した土族や小作人たちの労苦により、荒野は美田と化していったのです。農民たちは「孫子の代までドーレン先生を語り継ごう」と銅像建立を働きかけ、昭和6年（1931）、ゆかりの十六橋水門わきに建立しました。

ところが第二次世界大戦で戦火が強まる中、軍事用に役立てるために金属類の強制的な供出が始まりました。しかもドーレンの母国オランダは敵国の連合軍側。銅像にも供出の運命しか残されませんでした。遠藤さんは「しかし、敵とか味方とかは関係ありません。農民がドーレンに大きな恩義があることは、決して変わらないのですから」と語ります。銅像を隠そう——そんな覚悟を決めたのは、安積疏水土地改良区理事長の渡辺信任でした。もちろん、それが憲兵に見つかったら大変なことです。そこで密かに銅像を運び山中に埋める実行部隊が集められました。遠藤さんの実父もその一人でした。「実行の日のことにはよく覚えていますが。夜、だれにも見られないように大きな重い銅像を台座からはずし、杉林の中を運んで土の中に埋めたと聞かされています」と、遠藤さんは振り返ります。その後、関係した人々は何度取り調べを受けても「銅像のことは知らない」と主張し続け、恩人を守り通しました。

そして敗戦を迎え、眠り続けたドーレン像は昭和21年（1946）に掘り起こされました。作業をした人たちは「ドーレン先生は骨にならないで生きていた」と大喜びしたと伝えられます。こうして再び猪苗代湖畔に立ったドーレンは、自らの事業を永遠に見渡すこととなった



現在の十六橋水門。その歴史的景観をとどめようと、改修・整備が図られています



安積地方へ取水する上戸取水口の前で往時を語る遠藤さん。「疏水が整備されるにつれ、開墾地の畑地は水田へと変わり、かんがい面積が増加していきました」

のです。

■時を超え国を越えた信頼関係を

厳しい戦時下にあつて、ついに守り抜かれた銅像——。それを成し遂げたのは、安積原野を真に切り拓いた農民一人ひとりの誇りと、恩人への厚い感謝の想いでした。

その想いが、恩人を砲弾に変えるのを防ぎ、国と国を結ぶ架け橋へと広がりました。日本でのドーレンの功績と、その銅像にまつわる秘話がオランダ国王にも伝わり、ほとんど地元では知られていなかったドーレンの名が、オランダ国内でも知られることとなったのです。昭



安積疏水完成時につくられた人工の滝「龍山の飛瀑」。単なる観賞用ではなく、製糸業の動力源として利用するために造られました。現在もその形をとどめ（写真下）、今年3月に、学術上貴重な近代建造物の保護を目的とした登録有形文化財に選定されました



安積疏水の分水路（郡山市熱海町）。疏水により農工業用水から生活用水まで確保された郡山地方は、その後大きく発展しました



郡山市は昨年9月、姉妹都市のオランダ・ブルメン市が21世紀以降の新たな友好のあかしに建立した記念碑の除幕式に出席しました

和54年（1979）、郡山市は温かい市民の募金により、オランダのアムステルダム市に、無縁仏寸前の状態だったファン・ドーレンの墓碑を再建しました。ドーレンが安積原野の地を踏んで一世経後、郡山とオランダの交流が広がったのです。さらに郡山市は、昨年9月、21世紀以降の新たな友好のあかしに、ドーレンの生誕地であるブルメン市が建立した記念碑の除幕式に出席しました。そしていま、安積疏水開削の礎となった十六橋水門は、その歴史的景観をとどめようと、改修・整備が図られています。

大地を潤し、工業用水、生活用水としても使われる安積疏水は、いまの郡山を築き上げた源流です。この目ざましい発展も、国際交流の広

がりも、「戦争によって破壊されなかった大切な心」が礎となったことを、忘れることはできないでしょう。ファン・ドーレン像の足元をよく見ると、そこにはセメントで補強した傷跡があります。「この足は、銅像を隠すために台座からはずした時に壊れたのです」と、遠藤さんは話します。ドーレンと農民を強い絆で結んだ銅像の生々しい傷跡は、戦火を乗り越えた熱い心のあかしであり、それが今日では、オランダとの強い絆のあかしとなりました。二度と像がはずされることなく、国を越えたかけがえない信頼を築き上げてほしい——ドーレンの像は、わたしたちに、そう語りかけているのかもしれません。

3月16・17日 TOPICS
ふくしま地球市民フェスティバル
開催



ふくしま地球市民フェスティバルが3月16・17日の両日、郡山市のビッグパレットふくしまで開催されました。

開発途上国の現状や国際協力活動に理解を深めることを目的に開かれたフェスティバルには、県内各地から2日間で約1500人が参加。初日は、中国湖北省で植林を進めている「福島県緑の協力隊」とルワンダの学校建設に取り組む「ルワンダの教育を考える会」による国際協力活動の報告、開発途上国で医療支援活動に従事している国際ボランティアセンター代表の桑山紀彦さんによる歌と映像を使った開発途上国の現状紹介などがありました。2日目は、国際協力事業団参与で前ケニア大使の青木盛久さんによる講演や青年海外協力隊員による帰国報告のほか、県内外19の国際交流団体などの出展によるフレンドシップ広場が開設され、にぎわいました。

3月23日 TOPICS
常磐道いわき四倉―広野IC間
開通

3月23日、常磐自動車道のいわき四倉―広野インターチェンジ（IC）間が開通しました。

開通に先立ち、広野IC近くの本線上で行われた開通式では、関係者によるテープカットとくす玉割り、約200人の出席者の車両による通り初めのパレードで開通を祝いました。またこの日は、いわき中央―いわき四倉IC間に位置する四倉パーキングエリアもオープンしました。

東京と仙台を結ぶ総延長352キロの計画がある常磐自動車道は、今回の延伸により開通区間が全体の約6割の213.3キロとなりました。サッカーワールドカップに出場するアルゼンチンチームのキャンプ地にもなっている「ヴィレリッジ」へのアクセスが向上するほか、相双地域の産業・経済の発展や首都圏との交流などへの効果も期待されています。



3月27日 TOPICS
「うつくしま世界樹」オープニング
セレモニー開催



県の広帯域基幹ネットワーク「うつくしま世界樹」の運用開始を記念したセレモニーが3月27日、県庁で行われました。

うつくしま世界樹は、県民だれもが高度な通信ネットワークを活用して暮らしやすい社会を実現するための基盤として整備されたもので、県庁と7つの基幹合同庁舎などを結び3月から稼働を開始しました。セレモニーでは、佐藤知事が県民へのメッセージを述べた後、将来可能となる電子行政、遠隔教育、遠隔医療などのイメージをビデオで紹介しました。

今後は、県立の学校や病院、各市町村にも接続を予定しており、いつでも、どこでも、だれもが電子社会の利便性を受用できるよう、情報通信ネットワークの整備をさらに進めていきます。なお、将来の電子社会のイメージ映像は、県のホームページに掲載されています。

県人会だより

設立85周年を迎えて

―札幌福島県人会―

福島県人会北海道連合会を構成する14地区の県人会の中でも、とりわけ長い歴史を誇っているのが、大正6年5月に結成された札幌福島県人会です。会員数も約120名と最大の規模となっています。

この札幌福島県人会で平成14年度の総会が2月に開催され、恒例の事業とは別に、設立85周年の記念誌の発行や祝賀会を兼ねた親楓会の実施などが計画されました。

また、今年はサッカー・ワールドカップの1次リーグ3試合が札幌ドームで行われる予定ですが、そのうちの1試合が福島県の「ヴィレリッジ」でキャンプを張るアルゼンチンの試合でもあり、県人会としてもぜひ応援したいと考えています。

（会長 菅野勉彦）



話題の ひろば

4月1日 TOPICS

県原子力災害対策センター オープン

大熊町の県原子力センター隣に4月1日、県原子力災害対策センターがオープンしました。

同センターは、原子力発電所で災害が発生したときの対応拠点として県と国が共同で整備。原子力災害が発生した場合、原子力災害対策特別措置法に基づき、県、地元町、事業者、関係機関が一体となって協議しながら対策にあたる場として活用されます。情報提供や意思決定などがスムーズに行えるよう、ヘリコプターのカメラ映像などが表示できる映像システムや、センターと県庁、国、関係町を結ぶテレビ会議システムなどを備えています。

す。また、緊急時に備え、国の原子力防災専門官が常駐しているほか、原子炉などの監視や発生した事故の進展予測を行う「緊急時対策支援システム」なども設置されています。



4月1日 TOPICS

県立医大附属病院に総合周産期 母子医療センター開設

県立医科大学医学部附属病院に4月1日、総合周産期母子医療センターが開設されました。

同センターは、危険度の高い妊婦をはじめ、周産期（妊娠22週から生後7日未満）の胎児や新生児に対し、専門的で高度な医療を行うことを目的に同日から運用を開始した「周産期医療システム」の中核となる施設です。「新生児集中治療管理室」と「母体・胎児集中治療管理室」を備え、24時間体制で妊娠、出産から新生児に至る一貫した治療管理を実施。県内各所で周産期医療システムの一翼を担う4つの地域周産期母子医療センター

と6つの周産期医療協力施設とをオンラインで結び、患者の搬送を受け入れるほか、医師や看護婦などの研修、情報の収集や提供などを行います。



いわき市

平庭球場リニューアルオープン

いわき市の平庭球場が4月1日、リニューアルオープンしました。

昭和41年に建設された同庭球場は、老朽化が進んでいたため、市が平成12年12月から1年4カ月をかけて改修を実施。新しいコートは、全天候型の砂入り人工芝を採用、数も12面から14面に増やしたほか、壁打ちもできる練習用コートも設置しました。コートわきには、ロッカー室やシャワー室を備えた2階建てのクラブハウスも新築しました。同庭球場は、今年開催のねりんピックでも使用されることになっています。

☎0244(29) 1171

三春町

みはる番館オープン

三春町大町に4月4日、みはる番館がオープンしました。

街なかへの居住を促進し、にぎわいのあるまちづくりを進めようと、タウンマネージメント機関（TMO）である（株）三春まちづくり公社が整備。地下1階、地上5階建てで、10店の賃貸店舗と9戸の賃貸住宅を持つ複合施設となっています。飲食店や休憩所、観光客向けの郷土物産販売・観光案内、農産物直売所のほか、化粧品店、アンティークショップなどが入店しています。ぜひ、ご利用ください。

☎(株)三春まちづくり公社
0244(62) 5911



昭和村

からむし織の里「郷土食伝承館（芋麻庵）」オープン

昭和村佐倉にあるからむし織の里に4月27日、「郷土食伝承館（愛称：芋麻庵）」がオープンしました。

同村の伝統産業である「からむし織」などをテーマとした交流拠点として人気を集めているからむし織の里は、昨年7月にオープン。オープン時に整備されたからむし栽培の道具や方法などを紹介している「からむし工芸博物館」とからむし織の体験などができる「織姫交流館」に、今回、村の郷土食が味わえる飲食スポットが加わりました。村に昔から伝わる正月料理や祭り料理、祝い料理、薬膳料理など、昭和村の伝統の味を存分に楽しめます。

☎0244(58) 1455

募集

県統計グラフ講習会受講者

統計知識の普及と統計の表現技術の向上を図り、統計に親しみを持っていただくために講習会を開催します。
受講料は無料です。多数の参加をお待ちしています。

会場名	開催日	時間	場所
福島会場	5/30 (木)	午前10時	県庁本庁舎2階 201会議室 (福島市杉妻町)
郡山会場	5/31 (金)	午後4時	ビッグバレットふくしま 3階研修室 (郡山市安積町)

◆内容 各種統計グラフの作成方法や読みとり方の実習

◆申し込み方法 ①住所②氏名③電話番号④受講希望会場名を記入の上、はがきまたはファクスでお申し込みください。

◆募集期限 5月22日(水)

◆申し込み・問い合わせ先

〒960-18670 (住所記載不要) 県庁
電子社会推進・統計室統計分析グループ
☎024 (521) 71143
ファクス024 (521) 7914

第15回全国健康福祉祭ふくしま大会 「長寿社会・私の主張」

10月に開催する「第15回全国健康福祉祭

ふくしま大会(うつくしまねりんピック2002)では「長寿社会・私の主張」を募集しています。



◆対象 60歳以上
(昭和18年4月1日以前生まれ)の人

◆募集内容 高齢者の生活を豊かで明るくいきいきとするものについて、具体的な経験を通じて考えたことや意見、主張をA4サイズの400字詰め原稿用紙(ワイド)は20字×20行の縦書き) 5枚以内にまとめたもの。表題は自由です。

◆応募方法 作品に①表題②住所③氏名④年齢⑤電話番号⑥職業または前職業歴を記入した表紙を添えて応募ください。

◆募集期限 5月24日(金)当日消印有効

◆応募先 〒105-18446 東京都港区虎ノ門3-18-21 虎ノ門33森ビル8F (財)長寿社会開発センター

◆問い合わせ先 県庁ねりんピック推進室
☎024 (521) 7306

まほろん実技講座「投槍具作り」

県文化財センター白河館「まほろん」では、昔の狩りに使われた槍の威力をアップさせる道具「投槍具」を作る講座の参加者を募集しています。

◆対象 小学生以上(4年生以下は保護者の同伴が必要です)

◆日時 6月15日(土)午前10時~12時

◆参加費 1000円(材料費)
◆定員 20人

◆募集期限 5月31日(金)当日消印有効

◆申し込み方法 往復はがきに①住所②氏名③年齢(学年)④電話番号を記入の上、お申し込みください。

◆申し込み・問い合わせ先

〒961-10835 白河市白坂字一里段86 まほろん「投槍具作り」係
☎0248 (21) 07000

いわき海浜自然の家 「学ぼう! 森と水のエコスクール」

いわき海浜自然の家では、川の生物と森の関係などを学ぶエコスクールの参加者を募集しています。

◆日時 6月29日(土) 午前10時~30日(日) 午後1時の1泊2日

◆対象 県内の小・中学生とその保護者

◆内容 夏井川の源流を訪ね、そこに住む生き物と森、そしてわたしたちとの関係について学びます。

◆参加費 3000円程度(食費、保険料など)

◆募集期間 5月10日(金)~31日(金)当日消印有効

◆申し込み方法 往復はがきに①住所②氏名③電話番号を記入の上、お申し込みください。

◆申し込み・問い合わせ先
〒979-10335 いわき市久之浜町田之網字向山53 いわき海浜自然の家
☎0246 (32) 7700

いきいき長寿県民賞・いきいきライフ賞

経験や知識を生かして地域に貢献したり、中高年から一念発起して物事を成し遂

げるなど、いきいきと活躍している高齢者や高齢者の団体を募集しています。
自薦・他薦を問いません。奮ってご応募ください。

◆対象 おおむね65歳以上の人または主にそれらの人で構成されている団体

◆賞 ⅴいきいき長寿県民賞(知事賞) 6人(団体)以内 ⅴいきいきライフ賞(理事長賞) 7人(団体)以内 ※いずれの賞にも賞状と副賞が授与されます。

◆募集期限 6月28日(金)当日消印有効

◆応募方法 各市町村福祉担当課、最寄りの保健福祉事務所(いわき市は地方振興局、(財)長寿社会推進機構に備えてある応募・推薦書に、活動内容などが分かる資料を添えてご応募ください。

◆応募・問い合わせ先 〒960-18065 福島市杉妻町5175 (財)長寿社会推進機構
☎024 (524) 2225

県文化功労受賞候補者の推薦

県文化功労賞は、多年にわたり県文化の向上に著しい業績のあった個人を表彰するものです。現在、受賞候補者の推薦を広く県民の皆さんや関係団体から受け付けています。

◆対象部門 ⅴ芸術(美術、音楽、演劇、舞踏、文芸、生活芸術など) ⅴ科学(人文科学、自然科学) ⅴ教育(学校教育、社会教育) ⅴ体育(学校体育、社会体育) のいずれかの部門から2人以内を表彰

◆表彰式 11月3日(文化の日)

◆推薦期限 7月19日(金)当日消印有効
◆推薦書類提出・問い合わせ先 県教育庁総務課
☎024 (521) 7758

うつくしま21地球人セミナー参加者

日本と外国の青年による交流や地域でのボランティア活動を通して地球の広い視野を持った青年を育成するセミナーの参加者を募集しています。



◆開催期間 8月1日(木)～4日(日)の3泊4日(外国青年は、7月30日(火)～8月1日(木)のホームステイへの応募もできます)

◆対象・募集人数 ▼県内青年(県内在住の20～25歳で日本国籍の人) 30人 ▼外国青年(20～39歳で外国籍の人) 20人

◆内容 三島町内での宿泊交流、地域のボランティア団体との交流など

◆参加費 30000円(昼食代など)

◆募集期限 6月28日(金)

◆申し込み・問い合わせ先

県庁県民環境室青少年グループ
024(521)7187

【試験】

県職員・警察官の採用試験の実施

平成14年度の採用候補者試験を次のとおり行います。

◆県職員(大学卒程度)

▽受験資格 昭和48年4月2日から昭和56年4月1日までに生まれた人(一部の職種については、免許もしくは資格などが必要です)

▽受付期間 5月10日(金)～5月31日(金)

▽第1次試験日 6月23日(日)

◆警察官A(男性・女性)

▽受験資格 昭和48年4月2日から昭和56年4月1日までに生まれた人で、大学を卒業した人または卒業見込みの人

▽受付期間 5月20日(月)～6月11日(火)

▽第1次試験日 7月14日(日)

◆受験案内・申込書 5月10日(金)から県人事委員会事務局、各地方振興局で配布しています。なお、警察官採用候補者試験については県内の各警察署・交番・駐在所でも配布しています。

◆問い合わせ先 県人事委員会事務局
024(521)7588・7590

【案内】

ユニバーサル・デザインの提言

公募による会員や有識者で構成する「ふくしまユニバーサルデザイン研究会」から3月18日に提言書が県に提出されました。提言書では、ユニバーサル・デザインの考え方を取り入れたもの、まち、制度・意識などの環境づくり、人材の養成、県民、事業者、行政の役割と協働の取り組みなどについて具体的な提言をしています。

提言書をご覧になりたい人は、次にお問い合わせください(ホームページでもご覧になれます)。

◆問い合わせ先

県庁県民環境室人権・男女共同参画グループ
024(521)7188 または
各地方振興局商工県民部県民生活課
ホームページアドレス
<http://www.pref.fukushima.jp/kennin/u-d/index.html>

【催し】

ふくしま就職ガイダンス

県内に就職を希望する学生の皆さんを対象に、就職ガイダンスを開催します。

開催日	時間	会場
5/21(火)	午後1時～4時	中野サンプラザ (東京都中野区)
5/28(火)	午後1時～4時	グランバルティイワキ (いわき市平谷川瀬)
5/29(水)	午後1時～4時	ホテルハマツ (郡山市虎丸町)
6/3(月)	午後1時～4時	会津若松フシントンホテル (会津若松市白虎町)
6/6(木)	午後1時～4時	ホテル福島グリーンパレス (福島市太田町)

◆対象 来春卒業予定の大学、短大、高専、専修学校の学生

◆内容 県内企業の人事担当者との面接、ハローワーク職員による就職相談

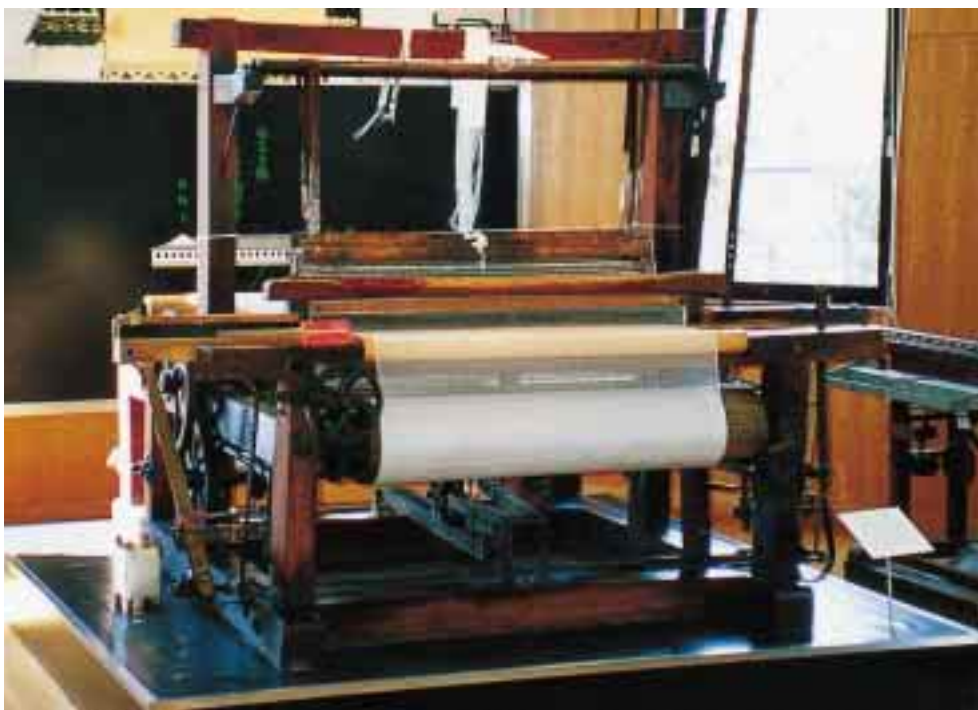
◆問い合わせ先 県庁雇用労政課
024(521)7212

県政広報ガイド

テレビ	ときめき うつくしま	FTV	毎週日曜日	9:00～9:25
	こんにちふくしま	FCT	毎週日曜日	11:00～11:25
	ふくしま探訪	TUF	第1土曜日	7:00～7:15
	うつくしま、ふくしま。	KFB	第2土曜日	11:30～11:45
	くらしの情報	FTV	毎週日曜日	11:45～11:50
	県政ニュース	FCT	毎週土曜日	18:25～18:30
	県政ウィークリー	TUF	毎週日曜日	9:55～10:00
	県政トピックス	KFB	毎週日曜日	13:55～14:00
	県政だより	FTV	毎週日曜日	17:25～17:30

ラジオ	商工ほっとライン	rfc	毎週水曜日	12:30～12:40
	JUST NOW ふくしま	rfc	毎週土曜日	9:20～9:40
	知事さんふれあいトーク	rfc	最終火曜日	12:30～12:45
	ふくしまEVENING BREAK	ふくしまFM	月～金曜日	17:30～17:35

新聞	目で見える県政	福島民報	5月12日、6月9日
	県民のページ	福島民友	5月12日、6月9日
	県政カメラトピックス	福島民友	6月16日
	県からのお知らせ	民報・民友	5月12・26日、6月9・23日



大橋兄弟式半木製力織機



かわまたおりもの展示館
伊達郡川俣町大字鶴沢字東13-1
☎ 024-565-4889
開館時間／9:00～18:00 (入館は17:00まで)
休館日／第3月曜日、年末年始
観覧料／大人150円、小中高生70円
(からりこ館と共通)
※体験は別途費用がかかります



県内の織物産業の振興に貢献 大橋兄弟が考案した力織機

▼福島県の養蚕・機織業発祥の地川俣町。およそ1300年前、小手姫が川俣の地に桑を植えて養蚕を始め、機織りを伝授したと伝えられています。この力織機は、明治39年(1906)に川俣町字新中町の大橋哲弥氏により考案されたもので、翌年には弟の秀三氏との協力で改良された『大橋兄弟式力織機』が完成しました。これにより手織機から力織機へ、川俣町はもともと福島県内各地の織業地にも普及していき、大正期に入ると、県内の力織機の半数以上が大橋兄弟式力織機で占められるようになりました。

▼「道の駅川俣」の敷地内にある『かわまたおりもの展示館』には、古代からの織物の変遷を紹介したパネルや数々の手織機、養蚕から機織り・相織物に関する写真と資料を展示しています。また隣接するからりこ館では、手織りや草木染めの体験ができます。

▼企画展「ふくしまのおりもの展」(6/30、夏衣装展(7月上旬)・9月中旬)



うつくしま、ふくしま。

発行
福島県広報広聴課
〒960-8670 福島市杉妻町2番16号
☎ 024-521-7015 FAX 024-521-7901
ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/>
2002年5月
※本誌に関するご意見や感想などございましたら、
広報広聴課までお寄せください